

子どものころ、大人になったら何になりたいかと聞かれるのが、ぼくにとってとても困ったもんだいでした。バスのうんてんしゅ、と答えたことをよくおぼえています。たまたまその日にバスに乗ったから、そう答えたのでした。電車なら電車のうんてんしゅ、だったのでしょうか。プロ野球のせんしゅになりたいとは大それて言えず、お父さんの仕事をまねして答えるのも、ちょっとかんたんだな、と感じていたのだと思います。つまり、ぼくは何になりたいのかをわからない子どもでした。たぶん、あこがれという気持ちが少ないにんげんでした。今から思うと、げんじつしゅぎ者だったのでしょうか。

マルシャークというロシアの作家が書いた、今日の劇では、男の人たちは、木こりと王様と兵隊などがとうじょうします。女の人たちは、そのむすめたちです。他には人ではなく「愛き目」というやくびょう神のような者がいます。もし、ぼくが子どものころにこの劇を見たとしても、ここにとうじょうする人たちの中でなりたいと答えるには、さすがにむずかしい大人たちばかりだな、と思います。兵隊になりたい、と答えたら悲しい子どもでしょうし、王様になりたいと答えたら病院につれていかれるかもしれません。では、木こりにしたとして、じっさい、この木こりはとても不幸でため息ばかりついているので、なかなか大変そうです。むすめたちにしても何をしている人たちのかわかりません。とにかくここにとうじょうする人たちは、お金で不幸をかいけつしようとします。何かをお金で売って不幸からのがれようとするのです。

ということで、今日の劇にとうじょうする大人たちに、あこがれを持つことができないという点

で、げんじつしゅぎ者のおはなしだと言えます。

ぼくが子どものころにこの劇を見ていたら、ほっとして笑っていたのかもしれないと思うと、マルシャークという作家が、これを子どもたちに見せるために書いたわけがわかるような気がするのです。

ぼくは、ふだんはぶ台作品ではなく、「インスタレーション」とよばれる美じゅつ作品を作っている者です。ゆかに色々な日用品を置いて、その間にライトをつけた鉄道もけいを走らせると、それらの物のかげが部屋にうつし出されて、まるで旅をしているような風景が広がる、そんな作品を作っています。

ぼくが作品に使う日用品はみなさんもよく知っている見なれた物ばかりです。例えばハンガーとかブラシとかカゴなど、そこらで売っているなんの変てつも無いものです。それらを工夫してならば、そのかげをうつし出すと、元のすがたとかけはなれた風景に変わります。ぼくはどこでもないけどどこかにあるような、たしかに以前見たことがあるけど思い出せないような、そんな風景に心ひかれるのです。ですからぼくの作品を見る時には、各々が自分のけい験したことのある風景を思い出しながら見てくれたらいいと思っています。

いつもは作品はひとりで作ります。最初に全体を計画し終わってからその通りに物を置いたりするのはなく、光の電車を走らせ、うつし出されるかげを見ながら、物を置いたり動かしたり取りのぞいたり、時には線路の位置を変えたりしてじょじょに全体を決めていきます。ぼくがそんな風に作っている様子を他の大人が見たら、「まるで子どもがおもちゃで遊んでいるようだな」と思うにちががありません。大の大人がひとりでゆかにはいつくばって、むちゅうで電車を動かしたり、まわりに物をならべたりしているんですからそれも無理もないな、とは思います。

でもぼく自身は、はたして自分が本当に子どものように遊べているのだろうか？と考えると、その自信が持てません。人はくらしや学校の中で、

色々なことを学びます。それを通して「目的」や「分別」など、世の中で生きていくために必要な、物事や考えを整理する方法を身につけます。これらはたしかにとっても役に立つのですが、強い力を持っていて一度身につけるとそれからのがれることがとてもむずかしいのです。そしてその便利さと引きかえに真っ先に失ってしまうのが遊ぶことではないかと思うのです。

この公えんを観に来たみなさんは、もう「目的」や「分別」が何のことか理かいていることでしょうか。それでも子どもとして遊ぶことだって、まだわすれていないはず。ぼくにはもう本当の意味では思い出せないで、みなさんに聞きたいのですが、遊ぶということは「目的」や「分別」のおにごっこのようなものではないですか？だからみなさんはケンカになったり大人たちにしかられるかもしれないのに「いたずら」や「ずる」が楽しくてやめることができないのではないですか？

今回ぼくは初めてぶ台作品に関わりました。えん出家のみうらさんの指じで、ありったけの物をぶ台に置いて、うりんこのみなさんがめいめいにその周りを歩いたりセリフを言ったりし始めました。そんなやり方は初めてだったので最初はびっくりしましたが、やがて「ハハン」と思い、それならこうしてみようああしてみようという風にやり始めて気づいたらこうなっていたのです。その時の様子をみなさんが見たらどう思ったでしょうね。